

## 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会の開催概要

『阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画 [平成25年3月]』策定後、計画に位置づけた河川下水道対策や雨水を貯留・浸透させる流域対策、被害を軽減させる減災対策について、県・市及び住民が相互に連携を図りながら取り組んでいる。本計画の進捗状況については阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会（以下「協議会」という。）へ適宜報告することにしており、平成30年1月に第7回協議会を開催した。

### 1 開催日時

平成30年1月23日（火）15時～17時

### 2 開催場所

尼崎市中小企業センター 1F 多目的ホール

### 3 会議内容

#### 1) 主な会議内容

##### ① 阪神西部地域における県・市・住民の取組状況について

- ・河川下水道対策：武庫川をはじめとする河川整備状況、下水道雨水幹線整備状況
- ・流域対策：校庭貯留整備状況、雨水貯留タンク助成状況、人工林の間伐状況 など
- ・減災対策：中学生を対象とした実験を加えた出前講座の実施状況 など

##### ② 阪神西部地域総合治水推進計画の見直しについて

「水防法等の一部を改正する法律（平成29年6月）」を踏まえ、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進するため計画内容の一部を見直した。

- ・想定最大規模降雨に係る洪水浸水想定区域図の作成・周知
- ・ホットラインの構築、水害対応タイムラインの策定
- ・市による想定最大規模洪水を対象とした取り組み
- ・要配慮者利用施設における、避難確保計画作成の支援

##### ③ これまでの取り組みの効果検証

- ・河川改修（武庫川）、学校校庭の雨水貯留施設の流出抑制、止水板設置助成制度

#### 2) 委員の主な意見

- ・想定最大規模降雨とはどの程度の確率の洪水を考えているのか。
- ・子育て世代の母に向けた出前講座を行い、水の怖さを教えていくべきと考える。
- ・武庫川流域に生活しているが、氾濫や決壊などの被害がないため、危機感が薄い。氾濫や決壊の恐れのある場合、行政から県民委員へ知らせる方法と、県民委員から県民みんなに知らせる方法について検討してほしい
- ・スマートフォンやインターネットを扱えない高齢者にもわかりやすく伝える方法を検討してほしい。
- ・地域の中でのタイムラインを作成し、住民にも周知してほしい。



【参考1】阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画に位置づけた主な取り組み

1) 河川下水道対策（治水対策）

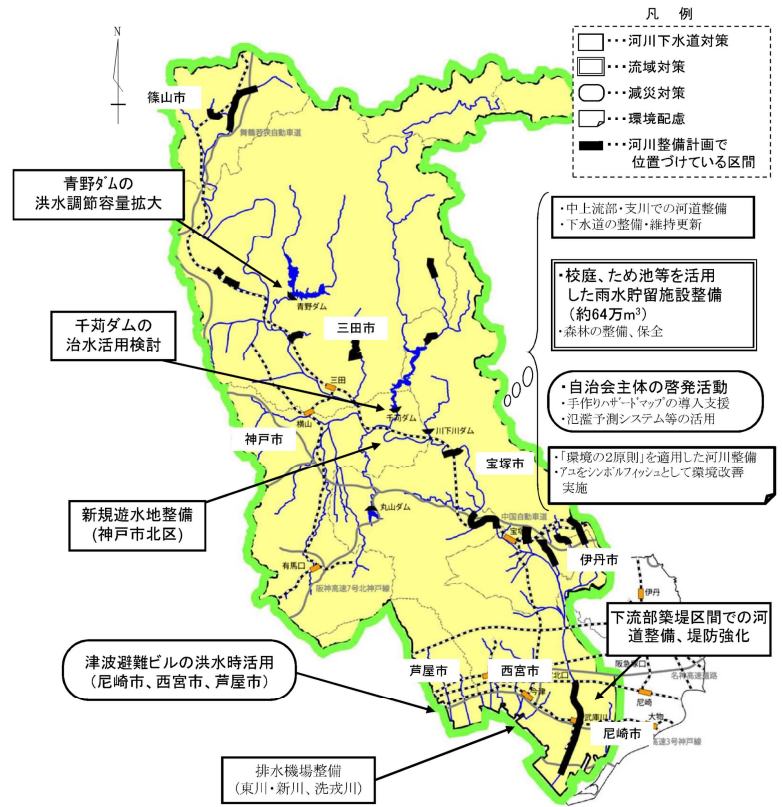
戦後最大（S36年）規模の洪水を対象に、下流部築堤区間の河道整備をはじめ、堤防強化、武庫川遊水地整備、青野ダムの洪水調節容量拡大等を実施。

2) 流域対策

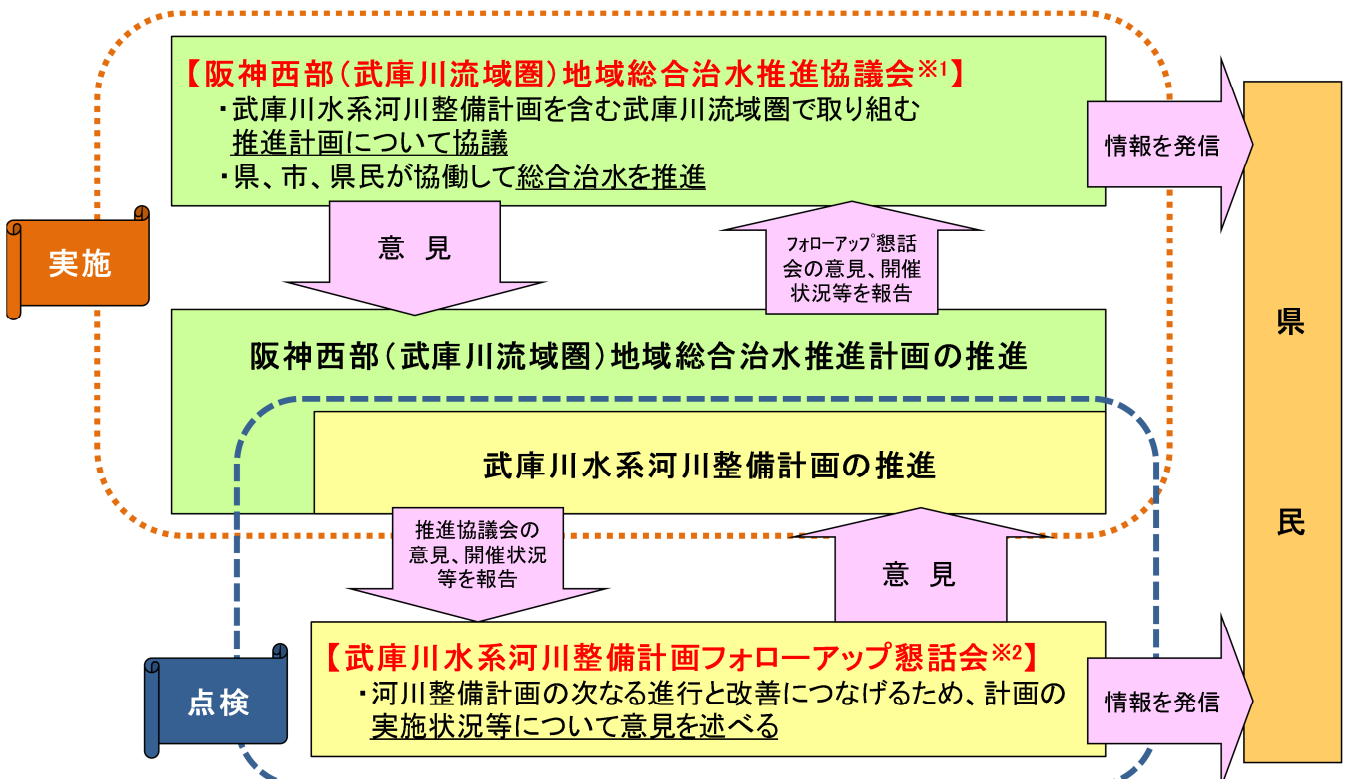
校庭・ため池等で約64万m<sup>3</sup>の雨水貯留（効果量：甲武橋30m<sup>3</sup>/s）に取り組むとともに、利水ダムの治水活用を検討。

3) 減災対策

自治会主体の啓発活動や津波避難ビルの洪水時活用等を新たに推進。



【参考2】「阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会」と「武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会」との関係



**Point** 計画の実施状況等は、協議会・懇話会で共有する

※1 総合治水条例に基づき設置（平成24年10月）  
 ※2 河川整備計画に基づき設置（平成23年9月）